



横浜市立新橋小学校 学校だより



令和8年5月29日
令和8年度 第3号

横浜市立新橋小学校
校長 内田 宏

見て・感じて・つなぐ学び

初夏の日差しの中、校内のあちらこちらで小さな命の営みや変化が感じられるようになってきました。新橋小学校では、花壇や鉢植えを生かしながら、子どもたちが実際に育て、観察し、感じる学びを展開しています。

5・6組では、花壇を活用した畑づくりに取り組んでいます。土を耕し、「どこに植えようか」と考えながら苗と向き合い、たくさんのお世話をしながら野菜づくりに取り組んでいます。また、「ひかりの池」につながる場所では、田んぼづくりに挑戦しているグループがあります。本当に田んぼにできるのかと試行錯誤を重ねながら、草取りや水入れを続けています。昨年度の6年生から受け継いだ環境と挑戦が重なり、ここにも「学びのストーリー」が生まれています。3年生の理科では、ホウセンカの観察に取り組んでいます。葉の形や枚数、茎の色や長さに目を向け、言葉やスケッチで丁寧に記録しています。「すじがある。」「少し赤い。」といった気づきからも、観察の深まりが伝わります。1年生は生活科で、アサガオの種を自分の鉢に植え、大切に育てています。毎朝の水やりの中で気づきを伝え合い、水やりの時にはアサガオの芽に「大きくなってね。」と声をかける姿も見られます。こうした体験は、アサガオに親しみ、思いを寄せながら関わる中で、自分とのつながりやよさに気づく学びにつながっています。

新橋小学校で大切にしていきたいのは、こうした体験を積み重ね、次の学びへとつなげていくことです。子どもたちは、記録や振り返りを通して、見たこと・感じたこと・考えたことを言葉や絵で表しています。低学年の生活科で培った「感じる・親しむ」といった学びを土台に、発達段階に合わせて理科へとつなげ、気温や大きさなどの視点から変化を確かめる学びへと広げていきます。記録を見返す中で、「なぜだろう」「次はどうしよう」という新たな問いが生まれてくるはずです。見て、触れて、感じ、記録し、振り返る——その積み重ねの中で、子どもたちは自分なりの学びをつくっていきます。新橋で大切にしたい「ストーリーのある学び」とは、体験と気づき、そして次への問いがつながっていく学びです。子どもたちの気づきや感動を大切にしながら、主体的に学ぶ力を育てていきたいと考えています。

□ 『学校運営協議会』について

5/26日(火)、令和8年度第1回学校運営協議会を開催しました。新橋小学校では、地域や保護者の皆様と学校が目標やビジョンを共有し、ともに学校づくりを進めていく「コミュニティ・スクール」として、学校運営協議会を設置しています。学校運営協議会は、地域住民や保護者の代表の方々が委員として参画し、学校運営について協議する場です。校長が学校経営の基本方針や教育活動について説明を行い、その内容について承認をいただくとともに、子どもたちの育ちに関する様々な視点からご意見をいただきながら、よりよい学校づくりを進めていきます。今回の協議会では、本年度の学校経営方針について説明を行い、ご承認をいただきました。

なお、本年度の学校運営協議会の委員は、下記のとおり地域や保護者、関係機関を代表する皆様にお引き受けいただいております。それぞれのお立場から本校の教育活動についてご意見をいただきながら、学校づくりを進めていきたいと考えています。本校が目指す学校像として、学校説明会資料にも示している「子どもにとって毎日行きたくなる学校」「保護者にとって通わせたい学校」「地域にとって応援したくなる学校」「教職員にとって働きたくなる学校」の実現を掲げています。また、子どもたち一人ひとりが安心して過ごせる「えがお(安心できる居場所)」、仲間と学び合う「なかよし(協働的に学ぶ力)」、主体的に学ぶ「チャレンジ(主体的に学ぶ力)」を大切にしながら、子どもたちの学びを支えていくことについて共有しました。さらに子どもの問いから始まる学びや、地域とつながる学びを大切にしていけることについても説明し、ご理解とご承認をいただきました。協議会では、「子どもたちにどのような力を育てたいのか」「地域としてどのようにかかわっていけるのか」といった視点から意見交換が行われました。このように学校と地域が同じ方向を向き、子どもたちの育ちを支えていくことの大切さを改めて確認する機会となりました。